

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

## 生命誌の広場

### テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

### 最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

### 最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

### 過去の書き込み

2019年 10月  
GO

### みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

### 2016年のテーマは何にしよう？

投稿日：2015.12.31 ニックネーム：Macky

先日の日曜日のテレビ情報番組で、失礼ながら初めて中村先生のことを知り、先生の世の中の動きに対する捉え方について拝聴させていただきました。他のコメンテーターの方々とは少し観点が違って、先生の語り口や内容が心に染み込んでくるようでした。その時以来、過去の「ちょっと一言」を読んでは「なるほど!」「その通り!」「そんな方がいらっしゃるのか?」の繰り返しです。中には、私の専門である気象の世界とも相通ずるものがあるな、と感じることもしばしば。ちょうど2016年の私自身のテーマを決めるこの時期に、中村先生と出会ったことは本当にラッキーであるとともに、テーマ絞りに悩む正月休みになっております。気象や防災の世界も「誌」の考え方が大事に思えてきました。考えなければいけないことを山ほど与えていただき、心から感謝しております。

### お返事

投稿日：2016.01.06 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。人という生きものが大切にされていないことがとても気になり、小さな生きものたちに学びながら「生きものとしての人間、自然の一部である人間」というところから社会を考えています。新しいお仲間が一人できたこと本当にありがたく思います。これからもこの欄に書き込んでいただけると元気になります。よろしく願いいたします。

### 季刊「生命誌」

### 読後コメント

投稿日：2015.12.21 名前：喜多良雄

季刊87号をお送りいただき有難うございました。毎号楽しく読ませてもらっています。大村智氏のこの度のノーベル賞受賞は84号のSCIENTIST LIBRARYでご研究とご功績とお人柄を読ませていただいておりますので、ニュースを見た時「あの先生だ!!」とまるで旧知の方のように感じ入りました。このLIBRARYは研究者の論文だけでは表れにくい「人」という奥行きが語り手と読み手をつなぎます。理と智慧という教える立体曼荼羅がゲノムの宇宙に直結して見るとTALKにあり、ピンときて84号、85号、86号の表紙円盤形図表を思い起こし、今号の図表も見入りました。つながりの一端を少しでも感じられるように東寺を一度訪ねてみようと思います。生命誌からは異なる視点から同じものを観る、異なるものを観るとそこから又異なるものが観えてくるという「のぞき眼鏡」をもらいました。これまで何気なく通り過ぎてきたものを時々立ち止まってこの「のぞき眼鏡」で見つめてみようと思います。

### お返事

投稿日：2015.12.22 名前：中村桂子館長



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場!\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

大村先生のインタビューは、メディアの方にもお役に立ったようです。研究は人であるという私たちの考え方でこれからも続けていきますので、楽しんでいただけたと思います。  
東寺は是非いらして下さい。私でもちょっと考えさせられる空間ですから。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 「生命誌とリアルのあいだ」

投稿日：2015.12.16 ニックネーム：ドラゴンファイト

関連ページ：[進化研究について](#)

中村先生

お返事有難うございました。壮大なお話のようですが、WEB時代とはそれもできてしまう時代のような気がします。「こころの情報学」や「集合知とは何か」「ネットとリアルのあいだ」の著者西垣通先生のお話も壮大なら、「声に出して読みたい日本語」の著者齊藤孝先生の「天才伝異①ユング」のお話も壮大、「ウェブ時代をゆく」の著者梅田望夫さんのお話もすごい広がりを見せています。また、放浪への衝動を持つ芸術家と言えど、地域社会に「普遍的な文化の基層」を見出す時に安定があるはずで、きっと、個の流動の変化に伴うところに浮かび上がってくるのは原風景の地平でしょうか、つまり大地、「生命誌とリアルのあいだ」というような本が生まれると面白そうですね。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 今年もありかとうございました

投稿日：2015.12.15 ニックネーム：Teru

中村先生、今年もありがとうございました。

いろいろなお話がありましたね・先生の見解は同感することが多かったとおもっています。

オリンピックの問題・昨日新デザイン2案を公表されました・壊す前に議論がされなかったが一番のハテナマークでした。

最近ハテナ問題が多いと思いませんか・生命誌の原点はそこからスタートしたとおもっています。

来年もバシバシ書いて欲しいですね・いいお正月をお迎えください。

### お返事

投稿日：2015.12.16 名前：中村桂子館長

隈さんと伊東さんのお二人はどちらも季刊生命誌に登場して素晴らしいお話をして下さいました（隈研吾さん対談：季刊誌73号、伊東豊雄さん対談：季刊誌54号）。二案共共通の考え方で、木を生かしているところなどにも共通性がありますね。まさに壊さずにこのような考え方を入れて改築するのが本当の答だったとおもいます。次に思うのは、最初のコンペでこのような案を採用しておけばよかったのに、そのセンスのない人が選択をしたのが残念だということです。

おっしゃる通り、社会が劣化しているようで気になります。小さな場ですが、原点は忘れずにとおもっていますのでよろしくお願ひいたします。



## 研究について

### 進化研究について

投稿日：2015.12.15 ニックネーム：ドラゴンファイト

『智恵の樹/F・バレラ&マテウラーナ著』の中に、「・・・進化はく放浪への衝動」を持った彫刻家にどこか似ている。彼は世界中を転々としながら、こちらで糸を、あちらで木材を集め、それらの部品の構造と環境条件とが許すままに、それらを結合させる。そうして、彼が放浪を重ねるにつれて、複雑な形態が産み出されることになるのだ。」とありますが、個を極限まで自己拡大しようとする芸術家は内側から自分の世界を構築します。今、必要なのは、そんな芸術家の世界（＝生命誌の世界観）なのではないでしょうか？「人間のように豊かで巨大なシステムを持った有機体においては、その相互作用の領域は、構造的カップリング（相補性）の新しい次元を許すことによって、新しい現象群への道を拓いている。人間（詩人）では、これが＜言語＞と＜自意識＞へと向かったのだ。それこそぼくらが探求する領域だ。・・・」せっかく、『智恵の樹/F・バレラ著』のような命がけの著作（チリの政治的圧政下の中生まれた。）が

あるのですから、ユングの深層心理学的なヴィジョンを持つ芸術家と連動しながら、これに忠実な研究というのはできないものでしょうか？具体的なアイデアは持っています。

## お返事

投稿日：2015.12.16 名前：中村桂子館長

バレラ・マトゥラーナは「自己創出する生命」（ちくま学芸文庫）という生命誌の出発点となる本を書いた時、いろいろ教えられました。「進化が放浪への衝動を持った彫刻家にどこか似ている」というフレーズは今覚えていないのですが、実感はあります。次回の「ちょっと一言」に書いたのですが、今生命誌についての考えを整理する時間が必要ですので、それを経て考えたいと思います。

▲ ページの先頭へ

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館  
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.